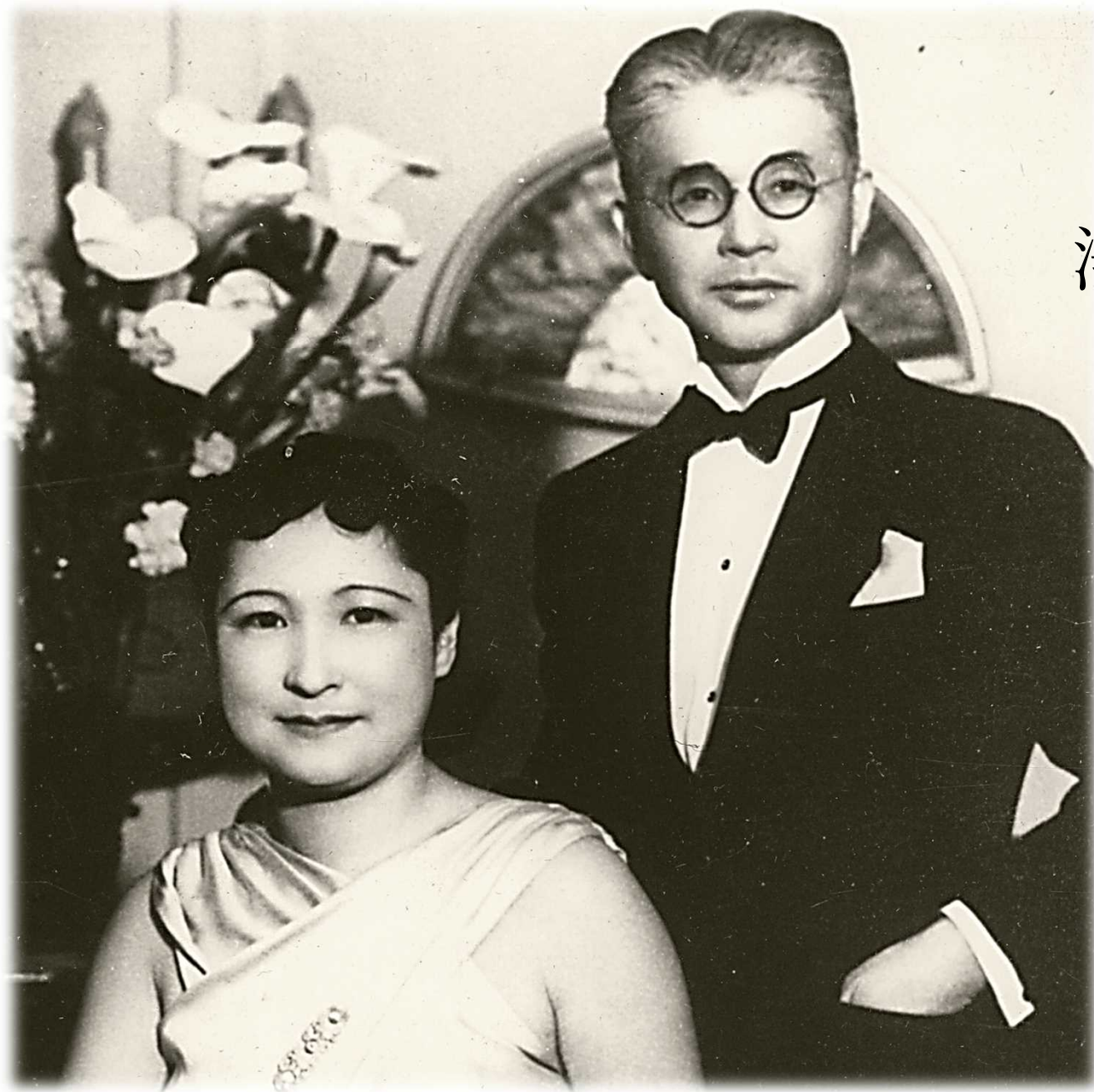


自由研究の教材

澤田 廉三 —最初の国連大使—

鳥取県立公文書館作成



1934年頃の
澤田廉三さん
(46歳)
美喜さん
(33歳)

澤田廉三さんはどんな人？

澤田信五と久子の三男として、岩井郡浦富村
(今の岩美町浦富) に生まれる。

(1888年10月17日生まれ～1970年12月8日)

父・信五 (のぶご)

東浜村 (今の新温泉町
浜坂) の森家出身。

浦富村長、県会議員、
北海道で漁業や牧場
の経営を行う。

節蔵 (長兄、1884-1976)

外交官(約30年)

退蔵 (弟、1893-1970)

実業家(三菱、富士紡績)

他に次兄と3人の妹

クリスチャンだった澤田 廉三さん

鳥取教会で洗礼を受ける(洗礼名はアブラハム)
(1903年、15歳)



澤田廉三さんの学歴と進路

浦富尋常(高等)小学校 ⇒ 県立第一中学校(5年間)
⇒ 第一高等学校(?年間、卒業は1910年3月、22歳)



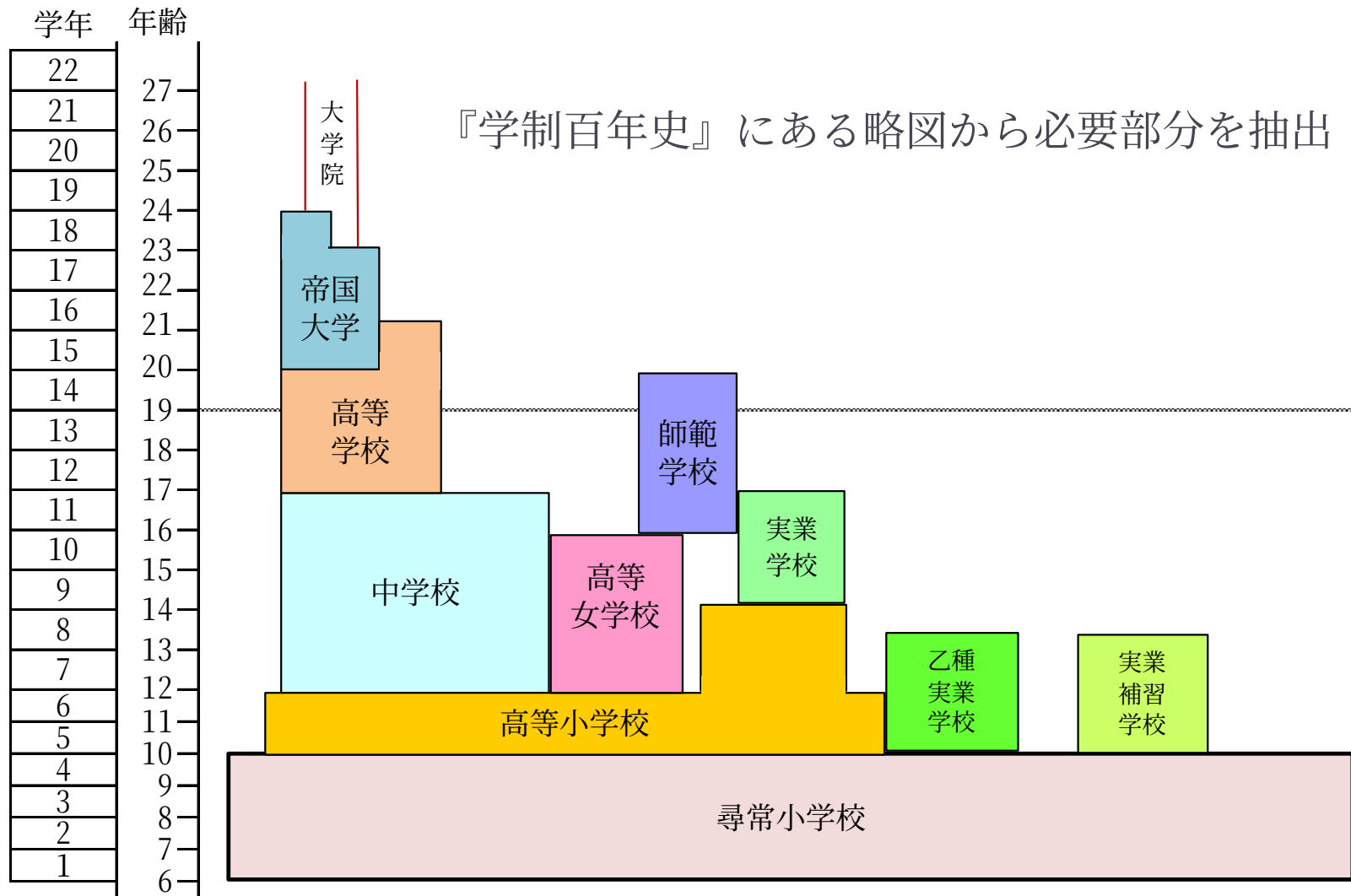
東京帝国大学法科大学フランス法律科
(卒業は1914年7月、26歳)



高等文官試験・外交科に合格し外交官補となる
(1914年10月、26歳)

👉 長兄の節蔵は1908年に合格

学校系統略図（明治33年）



外交官の仕事って！？

日本と外国との政治、経済、文化、社会などの交流において、交渉や調整を行う公務員（外務公務員）のうち、国外で仕事をしている人。外交官は国外にある在外公館に勤務し、日本政府を代表する立場で仕事を行う。

〈日本国の在外公館の例〉

在フランス日本国大使館、在ミャンマー日本国大使館

〈外国の在日公館の例〉

駐日アメリカ合衆国大使館

澤田廉三さんの仕事 ①

フランス大使館に勤める(1916年から約5年半)
第一次世界大戦(1914年6月-18年11月)の講和会議や
国際連盟の第1回総会に随員として参加。

アルゼンチン、中国、イギリス、フランス、
アメリカ、フランス等に赴任 (1922年～1940年)

免官

アメリカでは総領事、フランス (1939年9月～40年12月)
では大使となる。1938年には帰国して外務次官となる。



1922年7月、岩崎美喜さんと結婚
(3男1女を授かる)

澤田廉三さんの仕事 ②

復職してビルマ特命全権大使から再び外務次官へ
ビルマは1943年7月に日本が独立させた国（～1944年10月）。

1945年5月まで外務次官として戦争終結に向けて尽力する（同年8月15日敗戦）。廉三さんは1946年から1952年まで公職追放（外務省の出入りも禁止）となる。

特命全権大使（在ニューヨーク国際連合日本政府代表）となる（1953年3月～55年11月）。

国連未加入 → オブザーバーとしてロビー外交等を通じて国連復帰を目指す（1956年12月に復帰）。

国際連合（UN）って！？

- 1945年に51ヵ国の**原加盟国**で始まる。その後、第二次世界大戦の敗戦国であるイタリアが55年、日本が56年、東西ドイツが73年に加盟。
- 現在の加盟国は**193ヵ国**/196ヵ国 (2018年)
- ニューヨークに本部を置き、**世界の平和維持を目的とする**。主要機関は安全保障理事会
- 常任理事国は米・英・ソ・中・仏



特命全権大使(在ニューヨーク国際連合日本政府代表)に
派遣される澤田廉三さんと長男の信一さん

澤田廉三さんの教え

「愛国は愛郷より」(青年時代からの処世訓)

- ① 「私が今日あるは一に浦富の賜物である」と述べる。
- ② 「これからの時代…若い者は世界に目を開きなさい」
- ③ 観光資源を海外にも紹介する「国際観光」を提唱。

∞ 「私の念願するところは…世界の政治の舞台において、自分の国の問題を世界の問題として提起し、世界の知恵を借り、世界の援助によってこれを世界的に解決してもらいたい」(1956年10月の国連デーでの講演)
…同年12月に国際連合に加盟(80番目)



浦富にある澤田夫妻と長男信一さん、三男晃さんの墓所